

### 「左右考」

教育企画推進部 近藤 由里香

「右も左も分からない」という体験をしたことがあるだろうか。私はフランス留学に行った時、まさにそういう経験をした。一日でも早くフランス社会になじめるよう、言葉を学び、友人を作り、フランスについて何でも学ぼうとした。今まで全く知らない環境に入った時、人はがむしゃらに頑張れるようである。そうであるなら、大学進学や海外留学、そして就職を通して、このような経験をできるだけ多くすることで、人はさらに成長できるだろう。

ところで私は「右」と「左」が分からない。そう、いわゆる「左右盲」なのだ。車を運転していて、右に曲がれといわれて左に曲がり、右を向けといわれて左を向くというのは日常のことである。視力検査の時は、それはもう大変である。なので私は「右」「左」を判断しなければならない時、一寸考えてから行動するようにしている。例えば、お箸が右で、お茶碗が左。運転席が右で、助手席側が左と。つまり、私は海外に行かなくても、いつも右も左も分かっていないのだ。

しかし、よくよく考えてみれば「右」「左」というのは、極めて不思議だ。そもそも「右」「左」は客観的に実在するのだろうか。私の右側に置いてあるコップも、私が動けば左側にある。確実に右手だと思っている私のこの手は、鏡の中の私の左手ではないか。もしかすると誰もみな「右」と「左」について何も分かっていないのではないか。そこで「右」と「左」という言葉について、探究してみた。

「みぎ」「ひだり」の語源には諸説あり、混乱を極めている。「みぎ」は手で物を握る方なので、「にぎり」→「みぎり」→「みぎ」となったという説が有力で、他に「もちきり」説や「みきる」説もある。

「ひだり」の語源は、南向きに立った時に太陽の出る方角が「日出处」で、そこから「ひだり」になったらしい。確実にいえるのは、「みぎ」「ひだり」の語源はよく分からないということである。漢字はどうか。「右」は、右手を表す「又（ゆう）」と神を呼び寄せるための祝詞を入れた器である「口」とから

なり、神を尋ね、その助けを求める様子を示しているので、「たすける」の意味がある。「左」は、左手と神を呼ぶまじないの道具である「工」からなり、右手の働きを助けるので、やはり「たすける」の意味があるという。面白いことに、左右両方に「たすける」の意味がある。

ただし、「左」と「右」は価値中立的に向かい合っている訳ではない。例えば「右に出る者はない」というように、古代中国では「右」は「左」より尊ばれた。辞書によれば「右職」（地位の高い官職）、「右族」（勢力のある家柄）という言葉もある。逆に「左遷」は「左」が蔑まれたことを表す例として有名。他にも「左計」（失策）、「左語」（文字を知らない未開人のことば）というのものもある。ただし、「左大臣」「右大臣」では「左大臣」の方が上で、どうやら時代によって左右の優劣も交替したらしい。

英語の「right」には、「正しい」「優れた」「道理」「権利」という意味がある。これは古英語「riht」から来ており、元々「正しい」「直線的な」という意味があったからだ。「left」は古英語の「lyft」から来ており、「弱い」「不吉な」という意味があったらしい。

「left-handed」で「不器用な」という意味になる。ちなみに、フランス語では右が「droit」で「直線的」「法律」という意味を持ち、左は「gauche」で「不器用な」「不吉な」という意味もある。遡ってラテン語でも右は「dexter」で「器用な」、左は「sinister」で「不吉な」の意味があった。これは多くの人の利き手が「右」で、器用に使うことができたからに違いない。さらに古代ローマの人々は、身体の「右」は神聖で、「左」には悪霊が宿ると信じていたという。確かに、インドでも右手で食べ、「不浄な」左手は使わないと聞いたことがある。もしかして「お箸は右！」というのも単に利き手だからという意味だけではなく、「浄と不浄」の考え方が反映しているのかもしれない。

どうやら「右」はポジティブで、「左」はネガティブであるというのは、人類に共通しているようである。それは右利きが人類の大多数だからであり、さらにそれは人類が言語をあやつるようになって、「左脳」を発達させたからだと考えられている。

以上、探究の結果、「右」「左」はやはり極めて主観的な概念なのではないかという思いを強くさせた。

「右」と「左」は非常に奥が深く、まだまだ興味は尽きないが、この探究を通して、私は「右」と「左」について多くを知った。しかし、いまだに私は「右」と「左」が分からない。

## 台湾来校交流 実施報告

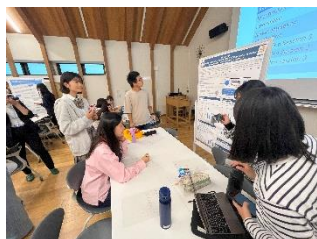
今年度、台湾から本校を2校の学校が訪問し、授業や探究活動を通じた交流を実施しました。ここでは、その様子を紹介します。

10月24日（木）

### 台湾国立新竹科学園區実験高級中学校 来校

新竹科学園區は本校の「SSH 台湾研修」で訪問先となっている TSMC 台積創新館の所在地で、半導体を中心とした最先端の科学技術に関する企業の集積地です。その新竹の企業・研究機関の子息を対象に先進的な理数系教育を行うのがこの新竹実験高中です。

今回は中学生・高校生計26名と引率教員3名の計29名が本校を訪問し、授業や探究活動の参加・見学、部活動訪問などで交流を深めました。また、生徒から募集のボランティアスタッフが中心となって見学の案内を行いました。



2年生類型「探究A」、3年生類型「人文・数理探究」では各班に参加してもらい、本校生徒の探究に関するプレゼンテーションを聞いて、質疑応答を行いました。



1月22日（水）～23日（木）

台湾国立羅東高級中学校

### 来校交流・ホームステイ

7月のSSH台湾研修に引き続いて、羅東高中から生徒12名、引率教員1名の計13名が来校されました。7月の台湾研修では2泊3日のホームステイを実施していただき、その様子は教育企画通信のVol.4でも詳しく紹介したところです。現地で受けた熱烈な歓迎に、少しでもお返しできるところがあれば、喜んでもらえるところがあればとホームステイの受入事業を実施しました。

まずはできることから実施しよう、という趣旨で1泊2日の短い滞在となりましたが、各家庭で充実した時間を過ごすことができたようです。受け入れてくださいました皆様に、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



ホームステイの翌日は本校に生徒とともに登校し、生徒会の司会で歓迎会を実施しました。その後は、ステイ先の生徒が在籍するクラスを中心に授業に参加し、様々な体験を行いました。

昼食時や放課後には、ホームステイを受け入れた生徒と希望者で組織されるスタッフが来校生徒の案内と交流を行いました。7月に訪問した生徒、10月の新竹高中から引き続いてスタッフに加わる生徒など、多くの生徒が交流に参加しました。7月に訪問した3年生も、受験勉強の合間を縫って顔を出してくれました。昼食には折角なら地元の味を、ということで新長田「いろは」さんのお好み焼き・焼きそば・回転焼きを楽しんでもらいました。

7時間目は2年生類型「探究A」の授業に参加し、3MT（Three Minutes Thesis：探究活動の成果を1枚のスライドのみの3分間で、英語で発信する）の発表を聞いてもらいました。また、羅東高中の生徒からも探究に関するプレゼンテーションがあり、そのレベルの高さ、英語力の水準に大いに刺



激を受けました。

放課後はグループに分かれて部活動見学を実施しました。今回はESSの企画により校内スタンプラリーを実施し、楽しみながら長田高校の様子を見学していただきました。最後には中庭に集合し、記念写真を撮影して解散となりました。



## 探究授業の報告

年度末が近づき、1年生は探究のテーマ設定に向けた取り組みを、2年生は成果発表会に向けた取り組みを進めています。ここではそれぞれの取組を紹介します。

**1年一般・類型 理数探究基礎・探究入門**

**2月6日(木) 特別講義**

「なぜいま探究なのか？」

—長田高校生のためのはじめての探究—

神戸大学国際文化学研究所 教授

石川 慎一郎 先生(高40回)

石川先生にはすでに3年類型の「英語プレゼンテーションコンテスト」で審査委員長を務めていただいており、長田高校の探究に大学教員として、

OBとして深く関わって下さっています。今回はこれから探究テーマを検討していく1年生を対象に、探究活動の持つ意義やテーマ設定の切り口についてご講義いただきました。



高校生の探究活動として適切なテーマを見つけるためのポイントを、実際の例を交えながら説明してくださいました。圧倒的な情報量と面白さに、今後の探究に向けてのモチベーションを大いに引き出されたようでした。

＜生徒の感想より抜粋＞

・探究について、なぜするのか、なぜ必要なのかなどとてもわかりやすく、楽しく知ることができました。また、探究のテーマを決めるのが大切なのではなく、素材からどう発展させていくのかが大切なのだなと思いました。熱量をもって、満足のいく探究にしていきたいです！

・身近で当たり前だと思っていることにも一度立ち止まって疑問を持つことから“おはいお”で唯一無二な探究が生み出されると分かりました。今回の講義では、プレゼン力・聞き手を引き込むテクニックについてもたくさんの学びがありました。

また、2月13日(木)には実際に探究活動を経験した本校卒業生が「その後の自分たちに与えた影響」を1年生全体に向けて話してくれました。探究を通じて得られるリテラシーが、大学生活に繋がっているということを語ってもらいました。



**2年類型 探究B**

**外部発表会の成果報告**

探究Bの授業の一環において1月以降に参加した外部発表会は以下の通りです。

### ①サイエンスフェア in 兵庫

令和 7 年 1 月 26 日(日) 8 班が参加

『金属の変形とゼーバック係数の関係』

『塵取りの凹凸構造による回収量の促進』

『防災用品としてのダンボール履物の作り方の開発』

『傘の水滴の飛び散りについて』

『容器表面の微細な構造を用いた液だれ防止』

『ニワウルシの翼果のねじれが落ち方に与える影響』

『一葉双曲面構造の剛性について』

『サルトリイバラの葉の抗菌性』

### ②兵庫県高等学校探究活動研究会

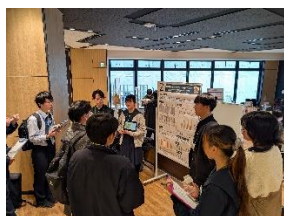
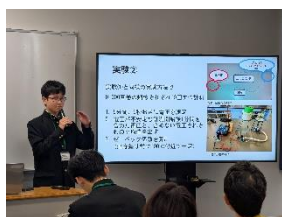
令和 7 年 2 月 8 日(土) 1 班が参加

『iDo15+世界の自然災害についての国際的な話し合いの場を通して相互理解を深める』

### ③Change Maker Awards 西日本ブロック決勝

エッセイ・動画審査 1 班が参加

『iDo15+世界の自然災害についての国際的な話し合いの場を通して相互理解を深める』



### 今後の発表会・コンテスト

#### ●ベネッセ 全国探究コンテスト最終審査

令和 7 年 3 月 2 日(日) 2 班が参加

『塵取りの凹凸構造による回収量の促進』

『防災用品としてのダンボール履物の作り方の開発』

## 探究成果発表会のお知らせ

### 78 回生「総合的な探究の時間」最終成果発表会

一般クラスの生徒が 1 年間試行錯誤しながら取り組んできた探究活動の最後の発表会です。1 年生の皆さんは、来年度自分たちがどのような探究活動に取り組みたいかをイメージできる大切な機会です。2 年生の皆さんも、お互いの探究活動に触れることで新たな学びを得られる機会にしてほしいです。

日時：令和 7 年 3 月 6 日(木) 9:00～

会場：長田高等 2,3,4 階

(講堂・LL 教室・HR 教室)

時程：9:00～ピロティで受付

9:15～①,②グループ発表

9:50～①,③グループ発表

10:25～②,③グループ発表

11:00 終了予定

### 長田高校 SSH 探究成果発表会

類型生徒の探究活動の集大成です。日本語の発表は最後の機会なので、1～7 組生徒の聴講も大歓迎です(^^)

日時：令和 7 年 3 月 17 日(月) 13:00～

※午前中は教科書販売＋写真撮影

会場：長田高校 3 階(講堂・HR 教室)

時程：12:45～講堂前で受付

13:00～開会行事

13:05～簡単な発表紹介

13:40～口頭発表(教室)&ポスター発表(講堂)

15:20～閉会行事

## 編集後記

学年末が近づいてきました。1 年間の探究活動の成果を発信する成果発表会が、類型・一般ともに予定されています。1 年生も来年の自分の探究をイメージしつつ、ぜひ積極的に質疑応答に参加してほしいと思います。特に、「探究の筋道」と「ロジックの積み上げ」は、他者の発表から得るものも非常に大きいことでしょう。

現在、次年度「SSH 台湾研修」の参加者選考を進めています。今年度、台風の影響で大幅に行程を変更することを余儀なくされました。もともと、2 年生の夏までに何らかの探究成果をまとめ上げることも難しかったこともあり、次年度からは「12 月の実施」に変更し、「新 2 年生」を対象とするプログラムになります。

また、夏休みに「シンガポール研修」を実施予定です。これは何らかの探究活動の実施を前提としないプログラムで、1 年生～3 年生の全学年が参加可能な海外研修です。ぜひ、こちらも参加を検討してみてください。

※同一年度内に本校が主催する海外研修への参加は、1 回限りとさせていただきます。その点はご了承ください。